

2012年度秋学期 財務会計

【第4回】

利益計算の仕組み(Ⅱ)、会計理論と会計基準(Ⅰ)

経済学部 山根陽一

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

1

2-2.複式簿記の構造 2-2-4.決算と財務諸表の誘導

- ・ 決算整理仕訳
 - ・ 仕訳帳に決算日の日付で記入 → 元帳へ転記
 - ・ 元帳の各勘定の残高金額
 - ・ 決算日現在の経済的事実を正しく反映
 - ・ ⇒ P/L、B/Sを作成
- ・ 精算表(working sheet)
 - ・ 残高試算表から決算整理を経てF/Sを迅速に導出できる表
 - ① 前T/Bのa/c科目別の残高を精算表の残高試算表欄に写しかえる
 - ② 整理記入欄に決算整理仕訳の金額を記入
 - ③ 収益・費用a/cはP/L欄、資産・負債・資本a/cはB/S欄に金額を記入
 - ④ P/Lの借方と貸方の差額を当期純利益(当期純損失)に記入し、貸借を一致させる
 - ⑤ 当期純利益(当期純損失)を自己資本の増加(減少)として、貸方(借方)に記入し、貸借を一致させる

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

3

2-2.複式簿記の構造 2-2-4.決算と財務諸表の誘導

- ・ 一期間中の取引に関する記録
 - ・ 物理的に知覚できる現象に着目して行われる
 - ⇒ 備品の使用に伴う価値の低下、借入金に対する利息の発生については記録されない
- 1. 決算整理(決算整理仕訳)
 - ・ 元帳の勘定残高を経済的事実と一致させるための調整
 - 例1) 備品の価値低下
 - ・ 備品を営業に使用 & 営業での使用に伴う価値の低下
 - ・ 営業収益を得るために備品を使用
 - ・ 費用の発生(減価償却費)
 - 例2) 借入金の利息
 - ・ 借入金は営業に投下されて売上収益の獲得に貢献
 - ・ 決算日までに発生した利息分を費用として計上

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

2

2-2.複式簿記の構造 2-2-4.決算と財務諸表の誘導

- 2. 帳簿決算
 - ・ 精算表は決算の仕組みを簡略に示すもの
 - ⇒ 正式の会計帳簿にも記載する必要
 - ・ 帳簿決算: 一期間の帳簿を締切ること
 - ① 損益勘定への振替
 - ・ 元帳の収益・費用a/cの残高を損益勘定に集合させる(&締切)
 - ・ 損益a/cの借方と貸方の差額を資本金a/cへ振替える
 - ※ 損益a/cからP/Lが作成される
 - ② 残高勘定への振替
 - ・ 元帳の資産・負債・資本a/cの残高を残高勘定に集合させる(&締切)
 - ※ 残高a/cからB/Sが作成される

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

4

2-2.複式簿記の構造

2-2-4.決算と財務諸表の誘導

- 大陸式決算
 - 残高a/cを設定して決算を行う方式
 - 英米式決算
 - 残高a/cの設定せず、元帳における資産・負債・資本の残高を集めて繰越試算表を作成し、各残高を次期に繰越す
 - ※ 繰越試算表がB/Sのもとになる
 - 3. 財務諸表の作成
 - 誘導法
 - 帳簿記録を基礎としてF/Sを作成し、そのなかで利益を算定する方法
 - 棚卸法
 - 決算日に資産と負債の実地調査をしてB/Sを作成し、一期間における純資産の増殖分として利益を計算する方法
 - ※ 利益の源泉を明らかにしたP/Lを作成することはできない
- ⇒ 誘導法の採用が不可欠

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

5

2-2.複式簿記の構造

2-2-4.決算と財務諸表の誘導

- 誘導法によるF/Sの作成
- P/L: **経営成績**(operating result)、**投資の成果**を表示
 - 金額だけではなく利益がどのようにして得られたのかを示す
 - 営業利益
 - 企業の主たる営業活動から得られた利益
 - 経常利益
 - 企業が毎期反復して営むような経常的活動から得られた利益
 - 当期純利益
 - 臨時的な損益を加減した最終的な利益
- B/S: **財政状態**(financial position)、**投資のポジション**を表示
 - 資金の調達源泉と運用形態を対照表示
 - 流動資産(current asset)・流動負債(current liability)
 - 相対的に短期間に換金・返済される資産・負債
 - 固定資産(fixed asset)・固定負債(fixed liability)
 - 上記以外の資産・負債
- 用語・様式のルール
 - 会社法: 会社計算規則
 - 金融商品取引法: 財務諸表規則

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

6

2-3.利益計算と財務諸表

2-3-1.損益法と財産法

- 当期純利益の計算方法
- 損益法
 - 収益 - 費用 = 利益 (損益法等式)
 - 資本を増加させる原因となる収益から、資本の減少をもたらす費用を控除する
 - 長所
 - 収益と費用の内訳表示を通じて、利益の発生源泉をも明らかにできる
 - 短所
 - 利益の裏付けとなる純財産の状況は示されない
- 財産法
 - 期末資本 - 期首資本 = 利益 (財産法等式)
 - 一期間における資本の増殖分をもって利益を計算
 - 長所
 - 財産的な裏付けを伴った数値
 - 短所
 - 利益の発生源泉は明らかにしていない

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

7

2-3.利益計算と財務諸表

2-3-1.損益法と財産法

- 発生源泉を明らかにし、純財産の裏付けを裏付けを伴った金額の算定
P/Lに示された損益法 + B/Sを基礎とする財産法
⇒ P/LとB/Sが利益額の決定に不可欠な基本F/Sと言われる所以
 - 両者は相互補完的な関係
 - どちらがよりいっそうの基本的概念かについての見解の対立
 - 収益費用観(収益費用アプローチ)
 - 収益・費用こそが中心概念であるとする見解
 - B/S: 収入・支出のうち収益・費用とならなかった部分を収容する集計表
 - 資産負債観(資産負債アプローチ)
 - 資産・負債を会計の基本概念とみる考え方
- ※ 伝統的な財務会計: 収益費用観に立脚して展開されてきた

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

8

2-3.利益計算と財務諸表

2-3-2.B/SとP/Lの関係

- **クリーン・サープラス(clean surplus)関係**
 - P/Lの利益 → B/Sの資本
 - 期間利益 = 資本の変化
- P/Lに計上されない項目の混入によって、資本(特に剰余金)が汚されていないということ
- **例) 其他有価証券の時価評価差額**
 - 全部資本直入法 or 部分資本直入法
 - 時価評価差額を直接資本に加算する会計処理
 - ⇒ B/Sの資本の増加額 ≠ P/Lの当期純利益
 - クリーン・サープラス関係を維持するには
 - 時価評価差額を利益計算に含めて当期純利益と合算した上で、資本に振替える
 - **その他の包括利益**
 - 取引を経て実現された利益ではないから、当期純利益と区別
 - **包括利益**
 - 当期純利益とその他包括利益で構成

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

9

3-1.会計基準の必要性

- **F/Sの作成**
 - 多くの場面で見積りや判断が必要
 - 恣意的な選択や会計処理
 - **利益操作のおそれ**
 - 利益捻出、利益圧縮
- **利益捻出の動機**
 - F/Sに示される経営成績や財政状態を良好に維持して、企業活動に必要な資金の調達(株式の時価発行、社債発行)を容易にすること
 - 経営能力のアピール(自己の地位の維持)、報酬増加
- **利益圧縮の動機**
 - 税金の節約(税法の許容する範囲内でできるだけ多くの費用を計上)
 - 得意先からの値下げ要求、仕入先からの値上げ要求、株主からの増配要求、従業員からの賃上げ要求の回避、政府からの補助金交付等

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

10

3-1.会計基準の必要性

- **会計処理を経営者の自由選択に任せてしまうと...**
 - 恣意的な会計処理を行い、自分に都合が良いように利益金額や財政状態を操作する危険が生じる
- **財務会計 ← 社会的に極めて大きな役割**
 - 機能を適切に果たすため
 - F/Sの作成と公表に際して準拠されるべき社会的な規範の設定
- ⇒ **会計基準**
 - 社会的な規範として形成
 - 「**一般に認められた会計原則**(GAAP: generally accepted accounting principles)」
- **会計基準の設定**
 - 会計処理の秩序を守らせ、適正なF/Sを作成させること
 - 監査人がF/Sの適正性について判断し意見を表明する場合の拠り所
 - 財務会計が利害調整機能や情報提供機能を円滑に遂行するために不可欠な前提条件

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

11

3-2.会計基準の設定と問題点

3-2-1.会計基準の設定

- **GAAPの設定は各国の経済的・社会的な背景によって多様**
- **1929年の株価大暴落(アメリカ)**
 - F/Sの公開制度が急速に整備
- **投資者保護と証券市場の円滑な運営**
 - 適正なF/Sを通じた企業情報の公開
 - + F/Sには公認会計士による監査が強制
 - 会計処理の適否を判断する場合の根拠として会計基準が必要
- → 公認会計士協会が会計基準の設定
- ⇒ 1974年～:財務会計基準審議会(FASB:Financial Accounting Standards Board)が「財務会計基準書(Statement of Financial Accounting Standards)」という名称で設定

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

12

3-2.会計基準の設定と問題点

3-2-1.会計基準の設定

- わが国の会計基準設定
 - 1930年代～
 - 第一次大戦後の経済不況を克服するための産業合理化を目的
 - 戦時中～
 - 政府による軍需品の買上げ価格を決定する起訴資料の作成を目的
 - 戦後～
 - 投資者保護を目的とするF/S公開制度の一環として会計基準が設定(アメリカを参考)
- 1949年:「**企業会計原則**」制定
 - 戦後の経済再建を目的として、外資の導入、企業の合理化、課税の公正化、証券投資の民主化、産業金融の適正化などを促進するため
 - 適正な会計処理を行ってF/Sを作成するための指針
 - CPAによるF/S監査の判断基準
 - 企業会計に関連する商法・会社法や税法などの法令の制定や改廃に際しても尊重

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

13

3-2.会計基準の設定と問題点

3-2-1.会計基準の設定

- **企業会計審議会**
 - 企業会計原則を管轄
 - 戦後から多くの会計基準を設定(P50,51参照)
 - 「○○に係る会計基準」
- **企業会計基準委員会**
(ASBJ:Accounting Standards Board of Japan)
 - 会計基準は政府機関ではなく民間団体が設定すべきという国際動向によって2001年に設立
 - 2002年より多くの会計基準を設定(P51,52参照)
 - 「**企業会計基準**第○号」、「○○に関する会計基準」
 - 「企業会計基準適用指針」
 - 「実務対応報告」

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

14

3-2.会計基準の設定と問題点

3-2-1.会計基準の設定

- 世界共通の会計基準を樹立しようという試み
 - 会計基準が国ごとに相違すると、投資者による外国企業への証券投資や、企業による外国市場での資金調達の妨げ
- 1973年:主要国の職業会計人団体が集結して始動
 - 「**国際会計基準**(IAS:International Accounting Standards)
 - 国際会計基準委員会(IASC:International Accounting Standards Committee)
- 2001年:国際会計基準審議会(IASB)に改組
 - 「**国際財務報告基準**(IFRS:International Financial Reporting Standards)」
- 日本国内の会計基準の新設や改廃
 - 国際的な会計基準との整合性が重視
- **コンバージェンス(convergence:共通化)**
 - 国内基準と国際基準の主要な差異を調整することにより、どちらの基準に基づくF/Sを利用しても同一の意思決定結果に到達するレベルにまで、国内基準と国際基準を実質的に合致させること
- 2010年3月決算期の連結F/S
 - 国際基準を任意に適用することを許容(金融庁)

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

15

復習

1. 期中仕訳では不完全な記録を経済的事実と一致させるために決算時におこなう調整仕訳のことを何とよぶ?
2. 残高試算表から決算整理を経てF/Sを迅速に導出する表を何とよぶ?
3. 一会計期間の帳簿を締切のことを何とよぶ?また、その際に収益・費用a/cを集合させる勘定科目名と資産・負債・資本a/cを集合させる勘定科目名を教えてください。
4. 財務諸表を作成するには、帳簿記録を基礎として利益を算定する必要がありますが、その方法を何とよぶ?
5. 利益の計算方法を2つ教えてください。
6. 利益計算の等式を2つ教えてください。

2012年 10月 19日
(C) YAMANE Yoichi All right reserved

16

復習

7. 会計学上、収益・費用と資産・負債のどちらが基本的概念かについて対立した見解がありますが、収益・費用こそが中心概念であるとする見解を何とよぶ？また、資産・負債を基本概念とみる考え方を何とよぶ？
8. P/Lに計上されない項目の混入によって、資本（特に剰余金）が汚されていないということを〇〇関係とよびます。
9. 取引を経て実現された利益でないため、当期純利益と区別される利益を何とよぶ？
10. 財務諸表を作成する際、経営者が利益操作するおそれがありますが、その利益操作には2種類あります。何と何ですか？
11. 現在、日本の会計基準を作成している機関名を教えてください。
12. 国内基準と国際基準の主要な差異を調整し、どちらの基準に基づくF/Sを利用しても同一の意思決定結果に到達するレベルまで合致させることを何とよぶ？